



新しい単語や英語表現を「知る」活動を充実させるー

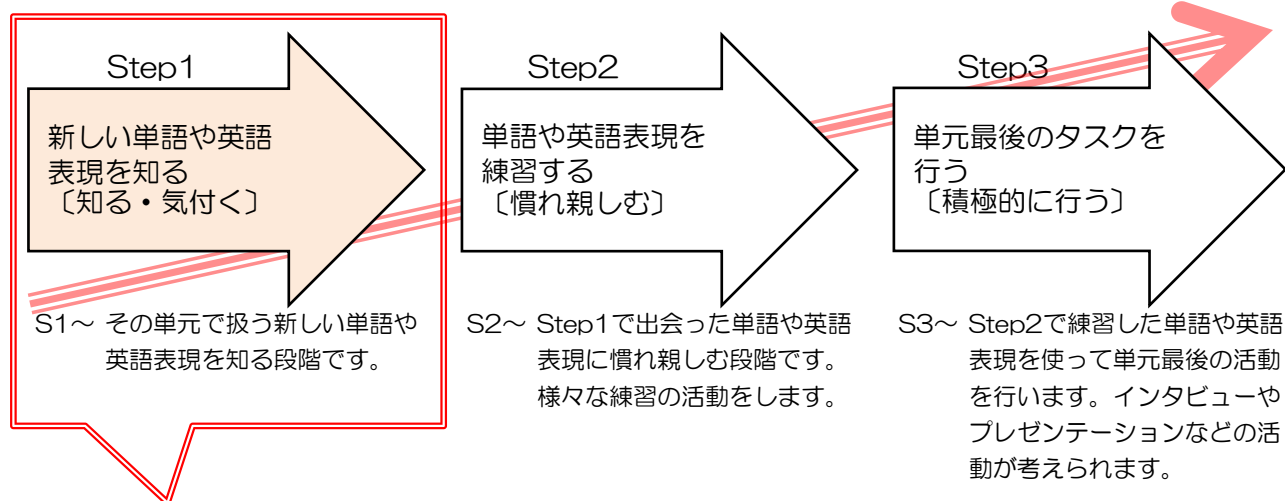
「基本の3ステップ」をふまえ、各段階のポイントについて詳しくみてみましょう。

今回は「新しい単語や英語表現を『知る』活動の充実」です。

単元の「導入」段階です。この段階では、ストレスや不安感といったものを感じさせずに、単語や表現に出会わせることが大切です。

「基本の3ステップ」を再確認した上で、活動例を見てみましょう。

単元全体の考え方（基本の3ステップ）



Class brainstorm（ブレインストーミング）

いろいろなジャンルの単語・表現の導入で使えます。「スポーツ」を例に説明します。

- 1 たくさんのスポーツ・カードを持っていることを児童に伝えます。
- 2 知っているスポーツの名前を英語でどんどん言わせます。
- 3 児童から単語を引き出し、スポーツ・カードをホワイトボードに貼っていきます。



Point・・・「どんどん言わせる」ところがポイントです。自由に言っていいいので、言い間違いを気にせずに声を出すことができます。そこから英語の表現につなげていきましょう。

例えば、出てきた単語が「バレーボール」だったとしましょう。そこは“Volleyball”と発音に気を付けて英語での言い方を確かめます。ALTがいれば、発音してもらおうといいですね。

ですが、「こんなことぐらい英語で知っているでしょう！知っていて当然だよね！」はいけません。

児童の気持ちをうまくのせながら、楽しく展開していきたいところです。

※ 基本にあるのは、「全体⇒グループ・ペア⇒一人一人」という進め方です。外国語活動では大切な授業イメージです。

Eliciting（引き出し方）～どうやったら児童は思わず言いたくなるか

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 1 ゆっくり見せる | カードを見せて、「これは～」と教えることもあるでしょう。 |
| 2 素早く見せる | カードがなくて、テキストを見ながらやることもあるでしょう。 |
| 3 少しだけ見せる | ですが、児童にとっては新しい単語や表現との出会いです。 |
| 4 ジェスチャーを見せる | 思わず声に出して言いたくなるような「しかけ」を仕込み |
| 5 ヒントを与える | たいものです。 |

